

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0194600151		
法人名	社会福祉法人 帯広太陽福祉会		
事業所名	グループホーム 広野の家		
所在地	北海道帯広市広野町西3線152番地 (電話) 0155-53-6532		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年12月8日	評価確定日	平成22年1月7日

【情報提供票より】(平成21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 20年12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算6.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	13,500~16,500 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	1名	要介護2	6名
要介護3	2名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 81歳	最低 71歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北斗病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雄大な日高山脈の麓に位置し、地域の村づくり委員会による福祉施設誘致の要望で出来たホームです。ホームの前は牧場で羊・馬の観察や餌やり、菜園作り、日常的に行く散歩コースで休憩できる場所の確保など環境が整備され地域と連携した取り組みがなされています。菜園は利用者一人ひとりのスペースが確保され思い思いの野菜作りや収穫した大根で切干大根や寒干し大根を作ったり、漬物や味噌づくりなど利用者と一緒に働く喜びや収穫の感動を共有し合っています。理念でもある「自分らしく暮らせる」ことが出来るホームを目標に日々、研鑽を積んでいるホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	開設から1年目で今回が初回の受審になります。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、普段のケアを振り返る機会やホーム内研修と捉え、職員間で話し合わせ管理者がまとめて作成しています。また、外部評価の結果については、職員で話し合い具体的な改善に向けて取り組んで行く予定です。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、年6回を目安に取り組んでいます。主な主題については ホームの活動状況報告 利用者の生活状況報告 運営推進会議の委員からの提言 ホーム行事「収穫祭」について 質疑応答
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月、広報誌「牧歌」を発行し、行事や日常生活の様子などを写真を載せて分かり易く伝え、金銭管理についても記録のコピーを同封して送付しています。来訪時に家族の意見を聞き、苦情・相談を話しやすい雰囲気作りを心掛け、意見は全体で話し合い結果を報告し、運営に反映させています。また、家族会の中でも意見交換が出来る機会を作っています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の村づくり委員会の要望で開設した経緯があり、ホームの畑などの環境等は地域の協力で整備され、ホーム主催の収穫祭には地元の人々が多数参加しています。また、地域の保育所、小学校の行事には積極的に参加して交流が図られています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしく暮らせる」ことが出来るホームを理念として作りあげ、実践を積み重ね地元の人々に評価されるようなホームづくりにむけて日々取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見易い場所に掲示し、管理者と職員は、常に理念に立ち返り、理念に沿ったケアが実践出来ているか考えながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の村づくり委員会の要望で開設した経緯があり、ホームの畑などの環境等は地域の協力で整備されており、ホーム主催の収穫祭に地元の人々が多数参加されている。また、地域の保育所、小学校の行事には積極的に参加し交流が図られている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、普段のケアを振り返る機会やホーム内研修と捉え、職員間で話し合わせ管理者がまとめて作成している。また、外部評価の結果については、職員で話し合い具体的な改善に向けて取り組む予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については年6回を目安に開催されており、地域住民代表・包括支援センター職員・ボランティア関係者・知見を有する方・家族等のメンバーで構成され、ホームの活動報告や地域との連携など具体的な活動に取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>普段から市の担当者とは現状報告やサービスを行う中での相談ごとについて、定期的に連絡を取り、ケア会議にも参加しており、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、広報誌「牧歌」を発行し、行事や日常生活の様子を写真を載せて分かり易く伝えており、金銭管理についても金銭出納帳や領収書、貯金通帳のコピーを同封して送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時に家族の意見を聞き、苦情・相談を話しやすい雰囲気作りを心掛け、意見は全体で話し合い結果を報告し、運営に反映させている。また、家族会の中でも意見交換が出来る機会を作っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者及び管理者は普段から職員の悩みや相談ごとをよく聞くように心掛け、職員の離職を必要最小限に抑える努力をしている。また、やむなく異動や離職をする場合には利用者に影響を与えないように心掛けている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム連絡協議会や高齢者介護の研究会、法人での研修会など外部の研修に職員が参加できるように取り組んでおり、外部の研修会に参加した職員は参加できなかった職員のために、研修内容の報告会も行っている。OJTについても積極的に進め職員が学ぶ機会の確保を心掛けている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、介護福祉士会・高齢者介護の勉強会の代表を務めており、他の事業所との交流の機会を作っている。また、連絡協議会の事務局もしているので、相互評価研修事業等でホームの相互評価も実施してサービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスをいきなり開始するのではなく、利用前には、利用者・家族の見学や面談などで不安を解消する取り組みを行い、少しでも場の雰囲気に馴染めるよう相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者主体の生活が送れるように、生活歴を踏まえ、役割や趣味が「生きがい」に繋がるように支援している。また、全職員は、日常生活の中で利用者が人生の先輩である事を心掛けて本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を活用し、一人ひとりの生活歴を踏まえ、本人や家族の意向や希望を把握し、職員間で情報を共有して本人の思いが実現出来るように支援している。また、24時間シートで見えにくい点は標準シートで確認している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>認知症ケアに有効とされるセンター方式が採用され、介護支援専門員の適切な監理のもとに、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画となっている。また、職員は日々の生活の中で気付いた点や感じた点をスタッフ同士もカンファレンスを行い、介護計画書に反映出来るように取り組んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画書に記載している個別の期間を目安に定期的に評価が実施され、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じて都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況、要望に応じて、散歩や買い物、ドライブ、通院など柔軟に支援を行っている。また、地域の方々の協力を仰ぎながら在宅の高齢者と園芸などを通じての交流を図っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医の診察が受けられるように、家族と協力しながら通院の支援を行っている。また、法人の嘱託医、看護師が訪問し日々の体調を把握し医療面の相談も受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用前に家族に十分説明しており、本人、家族の希望や意向があれば可能な限りホームで対応し、かかりつけ医、利用者・家族と早い段階から話し合いをしながら慎重に対応するよう全職員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを尊重した声かけや対応を心掛けており、ホーム内研修などで全職員に意識を徹底させている。また、法人全体でコンプライアンス体制を確立し、法令遵守への取り組みが実践されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの今の気持ちを尊重して、日常の散歩や食事の準備、玄関や共有空間の掃除の手伝いなど本人の希望やペースに沿って支援している。また、センター方式で生活歴が把握され職員間で共有されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、調理や盛り付け、配膳の準備、食器洗い等職員と利用者が一緒に行っている。また、食材についてもホームの菜園で作った物や地元の人々の差し入れの野菜、ホームで仕込んだ味噌を使い、利用者が楽しみながら満足感が得られるように取り組んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回の支援が行われ、入浴の長さや夜間帯など疾患等に配慮しながら希望に応じられるよう支援されている。また、夏場やその日の体調等で入浴できない場合には本人の要望を聴きながら清拭やシャワー浴で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の役割を持ちたいという気持ちを尊重して、ホームの菜園での作業や調理の下ごしらえなど「本人ができること」への生活の支援がされている。また、ホーム前の牧場の羊・馬の観察や餌やり、カラオケなどの楽しみ事への支援も行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の日課となっている散歩の他、利用者の希望に沿って、買い物やドライブなど外出の機会を設け利用者が戸外に出かけられるよう支援されている。また、利用者・職員と十勝川温泉へ泊りがけの旅行も実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、居室や日中玄関は、鍵をかけていない。職員間で連携をとり見守りを強化し、取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が設置され、緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように利用者と共に実技を伴う火災避難訓練を年2回実施されている。また、火災等の緊急時対応マニュアルと緊急連絡網も作成している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は生活シートに記録され、本人の状態に応じた食事の提供など利用者の状態変化に応じた支援が行われている。また、栄養バランスやカロリーについては法人の栄養士と相談し、助言を貰えるように取り組む予定である。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、広くゆったりとしており、ソファや椅子が設置されている。また、壁には行事の写真や利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気作りをしている。玄関先には、菜園で収穫した大根を寒干ししており生活感が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた椅子やテーブル、家具や家族の写真などが飾られ本人が居心地良く暮らせるように工夫している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。